

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200612		
法人名	株式会社 マイプティット		
事業所名	グループホーム なのはなの家		
所在地	山口県宇部市笹山町2丁目8-16-4		
自己評価作成日	令和 4年 1月 25日	評価結果市町受理日	令和4年6月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和4年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の理念を基に、認知症高齢者の気持ちを理解しながら共に生活を送る事で、家庭的な雰囲気づくりに努めており、季節ごとの行事等取り入れ、利用者、ご家族様に安心して楽しく過ごしてもらう工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者がこれまで大切にしてこられた馴染みの人や場所との関係が途切れないように、コロナ禍の中でも万全の予防措置をとられて、以前と変わらず面会や来訪ができるよう取り組まれています。玄関横にビニールカーテンを利用した面会場所の工夫をされ、家族の面会や親戚、友人など、どなたが来訪されても、時間の制限もなく、自由に会って語らいができるように支援しておられます。利用者のペースを大切にされ、職員は多忙な雰囲気を見せないで、ゆったりと利用者の話を傾聴され、一人ひとりの暮らし方の思いや希望、意向を把握されて、その人らしい生活となるように支援しておられます。その中で得られた利用者の思いを「昔の遊びのDVD鑑賞」や「脳トレの今日は何の日」などの活躍できる場面づくりや楽しみごとに活かしておられます。排泄の自立のために夜間のみ居室にポータブルをを設置されたり、立位困難な利用者には職員2人で介助をされるなどの支援をされ、利用者全員がトイレでの排泄や排泄の自立をしておられます。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・のんびり・たのしく」を事業所理念とし、利用者様にとって安心して心地よく生活できる環境となるよう努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員はミーティング時やカンファレンス時に理念について話し合い共有している。理念にある「ゆっくり・のんびり・たのしく」を事業所内に掲示し、利用者が「安心して毎日を笑顔で楽しく過ごしてもらえよう」支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当施設は住宅街に位置し、近隣の方との関わりを大切にしている。 隣家の方と畑作りをしたり、道沿いに面する花壇造りをしている。	自治会に加入し、地域の情報は回覧板や自治会報で把握しているが、コロナ禍の為、利用者が参加できる行事は中止となっている。事業所でも地域の人が参加できる行事は計画していない。利用者と職員は一緒に、事業所の道沿いの花壇づくりをして、道行く人から「きれいだから見るのが楽しみ」と声をかけられている。事業所の畑で野菜づくり(玉ねぎ、ジャガイモなど)時には、隣家の人が手伝ってくれている。月2回、来訪する「訪問理容」の利用や家族の協力を得て地域の馴染みの美容院を利用している。毎月1回来訪のあったボランティアには待機してもらっている。利用者は、回覧板を回したり、散歩時に会える地域の人と挨拶を交わしたり、花や野菜の差し入れがあるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を深めるため職員の内部研修を実施している。 コロナ禍で地域の方との交流は控えているが、近隣の散歩時には地域の方と挨拶している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価を職員にフィードバックし、自身の介護を振り返り、改善方法を話し合っている。	管理者はミーティング時に評価の意義を説明している。職員個々に自己評価表は配布していないが、毎月実施している自己評価項目同様のミーティング時の発言内容記録を参考にして管理者が一人でまとめている。職員一人ひとりは、日々のケアを振り返る機会となっている。前回の外部評価結果を受けて、月1回のミーティングや内部研修で緊急時の対応や事故防止、移乗動作について学び、誤薬や転倒については事例を通して実践研修をするなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナ禍であるため、令和3年度は書面開催とさせて頂いている。市役所担当者、自治会長、ご家族様へ近況を会議資料としてまとめ、送付してご意見をお伺いしている。	会議は2ヵ月に1回、書面での開催としている。入居者の生活状況や事故、ヒヤリハット報告、行事報告、行事予定、身体拘束適正化会議報告と併せて、意見や質問を記録する用紙を同封しメンバーに送付している。メンバーからは、事故報告内容を具体的に記録してほしいことや、コロナ禍での労いがあり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所担当者には書面開催の運営推進会議資料を送付し、入居者状況や事故報告等の報告を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。	市担当者とは、書面による運営推進会議時や電話で情報交換を行い、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、市担当者を通して連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化のに基づき指針を作成しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 やむを得ず拘束する場合は、事前にご家族様に説明し同意を得ることとしている。 身体拘束の事実がない場合でも、運営推進会議（書面開催）にて報告している。	職員は、内部研修で身体拘束・高齢者虐待について、スピーチロック、ドラッグロック、フィジカルロックなどについて学ぶとともに、「身体拘束等適正化会議」の事例を通して、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者があれば、一緒に散歩に出掛けて気分転換を図るなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止は、ミーティングにて虐待にあたる行為や言動がないか確認し話し合い、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度の利用者がいない為、学ぶ機会も少ないが、特に個人情報の取り扱いについては、日常生活の中で起きていることをミーティングで話し合い、職員同士注意を払っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書と重要事項説明書の内容を理解・納得して頂けるように、丁寧にわかりやすく説明するよう心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談等については、玄関にご意見箱を設置しており、職員間で改善に向けて話し合う機会を設ける。	相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手順を明示し、契約時に家族に説明をしている。面会時や運営推進会議書面送付時、電話、手紙等で家族からの意見を聞いている。ご意見箱を設置している。例年実施している「家族説明会」はコロナ禍の為、今年度は中止している。家族宛に毎月、事業所便りと利用者の生活状況を「家族への手紙」で知らせている。相談や苦情は、苦情受付書や業務日誌に記録して職員間で共有している。個別ケアに関する相談にはその都度対応している。入居間もない利用者家族から、利用者の不安への対処のお願いがあり、家族と連絡を取りながら対応している。職員の家族的(家庭的)な対応や毎月の「家族の手紙」への感謝、外出に代わる室内での楽しい試みなどから安心して任せられること、コロナ禍での労いなどがあり、それらの意見をふまえて更なるケアの向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングにて、運営側と施設側で両方の意見交換や、情報共有は出来ている。	管理者は、月1回のミーティング時(代表者として部長も参加)やカンファレンス時に聞く他、日常業務を通していつでも聞いている。管理者の方から言葉をかけて話しやすい雰囲気づくりに努めている。職員からは、入浴方法の改善(毎日入浴できる)や花壇づくり、行事に必要な備品の購入(ファンヒーター、ソーメン流し器)などがあり、運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のモチベーションアップを図り、職員の提案や意見が言いやすい雰囲気作りを心掛けて、環境改善に努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍での外部研修への参加は難しいが、職員のスキルアップを図り、内部研修を行っている。	外部研修は、職員に情報を伝え、職員の希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供しているが、今年度はコロナ禍の為、受講していない。内部研修は、年間計画を立て、毎月1回、管理者や計画作成担当者、ベテラン職員が講師となって、接遇についてや介護保険、感染症(新型コロナ他)・食中毒、認知症について、プライバシー保護、緊急時の対応、移乗動作、事故防止、薬の種類と副作用、身体拘束・虐待等について実施している。新人職員は、管理者が1日間指導の後、日々の業務の中で先輩職員から介護の知識や技術を学べるように支援している。株式会社では介護福祉士資格取得に向けての支援をしている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で外部研修の参加も難しく、同業者との接触は控えめになっている。リモート研修等を通じて、交流する機会をつくっていかねばならないと考えている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時のアセスメントで、本人と家族の思いを伺っている。 本人のこだわりや慣れ親しんでいるものを受け止め、安心して生活していける関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や困っていることに耳を傾け、都度対応し、家族との信頼関係を深めるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人と家族の要望を聞き、必要なサービスについての助言をしている。 入居後も要望に応じて、本人・家族の理解を深めながら、よりよいサービス提供ができるよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の立場になって考え、本人の思いを傾聴し、共感しながら関係を深めるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族からの相談や要望に耳を傾け、家族の本人への思いを大切にしながら、家族に安心してもらえるよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍ではあるが、家族・友人の来訪は歓迎している。 本人が寂しい思いをしないよう、馴染みの方々とお話しが出来るよう、ホームとして工夫しながら支援に努めている。	コロナ禍の中、面会方法を工夫（玄関でビニールカーテンをして）、家族の面会や親戚の人、友人、知人の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。昔からの馴染みの季節行事（初詣、節分、クリスマス）を事業所内で行ったり、花見に出かけている。家族の協力を得て、馴染みの理美容院の利用や買物、外食、一時帰宅等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良好な関係を築けるよう、職員が間に入って一緒に会話したり、利用者が色々な方とお話ししたり関わり合えるよう、ホームとして工夫し支援に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら、サービス終了後も本人、家族の経過を見守り、必要に応じていつでも支援が出来るように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が職員に話しやすい雰囲気作りを心掛け、会話の中で抱えている悩みや思いを把握し、職員が共有しながら本人に寄り添ったケアに努めている。	入居時にはセンター方式のシートを活用して本人や家族から基本情報やこれまでの暮らし方、願い、支援してほしいことなどを聞き取って思いの把握をして活用している。日々の関りの中では、職員は忙しい雰囲気を出さないで、利用者のペースで話を聞くように心がけており、利用者の発した言葉や表情、喜ばれたことや笑顔の見たこと、熱中されたことなどを、支援記録に記録して思いの把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合って本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントしているが、認知症センター方式の様式を利用して、職員の利用者への共通理解と把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や個別記録に記録する事で、本人の状態の変化が把握できるようにしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで、本人の状態や家族からの相談と必要な支援を職員間で話し合っている。	計画作成担当者を中心に月1回、カンファレンスを実施し、本人の思いや家族の意向、主治医、訪問看護師の意見を参考にして、職員全員で話し合い、介護計画を作成している。事業所独自に一人ひとりの「週間サービス計画表(入浴時間、与薬時間等個別の内容)」を作成している。3ヵ月毎にモニタリングを実施し、6ヵ月毎見直しをしている。利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録の記入により、毎日のバイタルチェックや日々の様子について情報を共有している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍での対応として、玄関ではあるが、ビニールカーテン越しで面会が出来るようにしている。 今後は家族の行事への参加をしていきたいと考えている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域の方をホーム内に来て頂くのは困難であるが、ホーム庭の畑作りや花壇作り、近所のお散歩で地域の方と触れ合う機会を設けている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に医療との連携の説明をし、主治医を核に、出来るだけかかりつけ医に受診できるように支援している。かかりつけ医のない場合は、ホームのかかりつけ医において医療が受けられるよう支援しており、協力が得られている。	本人、家族の希望するかかりつけ医としている。協力医療機関がかかりつけ医の場合は、月1回の訪問診療がある。希望のかかりつけ医や他科受診は、家族の協力を得て受診支援をしている。受診結果は介護支援記録と申し送り簿に記録して職員間で共有し、家族には電話や面会時、月1回の「家族への手紙」に記録して送付している。緊急時には主治医に連絡して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常は看護職員と情報共有して対応しており、月2回の訪問診療では主治医・看護師とも連携しており、24時間相談体制や緊急時の対応に協力が得られている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には職員が付き添い、情報提供や情報交換をしている。 またケース会議や退院カンファレンスに参加するなど病院関係者と連携を密にし、退院支援をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合における対応に係る指針」の同意や「意向確認書」の記入により、家族の意向の把握やホームの方針については説明を行っている。	「重度化した場合における対応に係る指針」に基づいて、重度化した場合に事業所のできる対応について、契約時に家族に説明し、「意向確認書」を交わしている。実際に重度化した場合は、早い段階から家族と話し合い、本人や家族の意向をふまえて、主治医や訪問看護師と話し合い、方針を決めて共有し、医療機関や他施設への移設も含めて支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故への再発防止の取り組みとして、ひやりはっと・事故報告は義務付けている。急変・事故発生時の対応については内部研修を行い、職員の実践力の向上に努めている。	事例が生じた場合は、ひやりはっと報告書、事故報告書に原因、対応、予防策を記録して回覧し、月1回のミーティング時に再度話し合い、一人ひとりの事故防止に努めている。内部研修で緊急時の対応や事故防止について学び、誤薬や転倒などの事例を通して実践研修をするなど、実践力が向上するように取り組んでいる。	・全職員での応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災・避難訓練は、今年度はコロナ禍であるためホーム利用者・職員のみでの実施となった。今後、地域の方も参加して頂き、実施していきたいと考えている。	年1回、防火管理者のもと、昼間の火災を想定した通報訓練や避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方、防災機器の使用について、利用者と一緒に行っている。コロナ禍の為、運営推進会議メンバーや地域からの参加はない。今後、運営推進会議を活用して、地域との連絡網をつくり、地震や風水害に備えての地域との連絡網や協力が得られるように取り組むこととしている。非常用食品は備蓄している。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇については職員からも積極的な意見があり、研修やミーティングでもケース課題として話し合っている。利用者の尊厳を大切にしたいという思いは職員皆が持っており、言葉かけには不快な思いをさせないよう慎重に対応している。	職員は内部研修(接遇、プライバシー保護)で学び、管理者の「忙しい雰囲気をつくらず、利用者の話のペースで傾聴しよう」の指導を通して、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録の保管や情報の取り扱い、重要事項説明書にある「個人情報の取り扱いについて」に基づき、適切に管理し、守秘義務を徹底している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で利用者の思いが伝わるよう、一人一人に応じた働きかけをしている。自己決定が出来ない方や意思を伝えることが難しい方は、その方の気持ちになって一緒に考えるようにしている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が職員に声を掛けやすい雰囲気と環境作りを心掛けている。 利用者の声に常に耳を傾けて、一人一人のペースを大切にしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、着替え服を自分で準備出来ない方は、本人の希望する服と一緒に選んでいる。 また、2ヶ月に一回出張美容も活用しており、外出時も季節や天気を見て、外出着と一緒に考え支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物を聞いて、特に行事や誕生日会では提供できるようにしている。 食事の準備をお手伝いしたり、食後はお膳を下げたり一緒に片付けをされている。	食事は業者の献立による食材を購入し、三食とも事業所で調理している。誕生会や行事の時には利用者の好きな献立を聞いて提供している。利用者が食べやすいように形態(刻む、とろみをつける、粥状等)や食器の工夫、季節感を大切に盛り付けるなど、食欲が高まるように工夫している。利用者は野菜の下ごしらえ(もやしのひげ取り)や、食材を袋から出す、盛り付け、テーブル拭き、箸を並べる、下膳、食器を洗うなど、できることを職員と一緒にしている。食事中はテレビを消して静かにBGMを流し、職員も同じテーブルについて同じものを食べている。誕生日には、手作りのケーキを作り、利用者がトッピングをしている。季節行事食(おせち料理、節句の寿司、夏のソーメン、年越しそば、冬の鍋物、ぜんざい)や家族との外食等、食事が楽しみなものになるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分摂取は記録でも確認しており、摂取量が少ない時は本人の状態や好みの食事等を確認し、栄養バランスにも配慮している。 本人の状態や好み、食べやすさに合わせて、刻みやミキサー食での対応をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に一回訪問歯科にも来て頂き、口腔内の診察と洗浄を行っている。 毎食後は歯磨きの声掛けをして、介助を要する方は職員がお手伝いをさせて頂き、状態に合わせてスポンジブラシを使用している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、極力オムツを使わないケアをしている。 失禁等失敗があった場合も本人の尊厳を傷つけないように対処し、排泄の自立に向けてポータブルトイレも使用し支援している。	排泄表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮した言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立のに向けた支援を行い、全利用者が排泄の自立をしている。排泄の自立のため、夜間のみ、ポータブルを利用している利用者が1名ある。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘について排便状況を記録し、把握して便秘が長引かないよう薬の調節をしている。 薬の調節は主治医にも許可をもらっており、長引く場合には主治医に相談している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の好きな利用者が多く、ゆず風呂など楽しめるよう工夫している。午前中を入浴時間とし、ゆっくり入浴してもらえるよう支援している。本人の希望に添えていないかもしれないが、利用者のその日の状態や気持ちには配慮している。	入浴時間は10時から12時とし、希望すれば毎日入浴できる。入浴の順番や湯加減、好みの石鹸、季節の柚子湯等、一人ひとりの希望に合わせて、ゆったりとくつろいだ入浴になるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、時間の変更や職員の交代、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、シャワー浴、シャワーキャリー、シャワーチェアを利用し、冬季のシャワー時には併せて足浴を併用する、立位困難な利用者には職員を2名にするなど、個々に応じた入浴の支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状態や気分です眠になる事もあるが、職員が寄り添い、不安や相談等を聞いて、穏やかに安心できるよう支援している。 居室の空調や温度設定もこまめにチェックし、睡眠環境を整えている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は職員が慎重に行っている。 作用・副作用や用法についても職員が理解し把握しており、状態変化があった際は医師の指示を仰いでいる。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味や特技を生活の場に活かして生活を楽しめるよう、利用者の能力を引き出せる環境を心掛けている。掃除や縫い物等、利用者それぞれに得意な物があり、楽しく喜びとなるよう声掛けしながら支援している。	掃除(モップで拭く、掃除機をかける)、リネン交換(枕カバー、布団カバー、シーツ)、カーテンの開閉、洗濯物(干す、たたむ、収納する)、花を生ける、花瓶の水を換える、プランターの水やり、花壇の草引き、畑の草取り、野菜を植える、収穫(玉ねぎ、ジャガイモ)、繕い物、雑巾を縫う、編み物、新聞の取り込み、新聞の折りたたみ、観葉植物に水やり、野菜の下ごしらえ、盛り付け、お茶の袋詰め、テーブル拭き、下膳、食器洗い、テレビやDVDの視聴(お笑い、歌、昔の遊び)、CDを聞く、新聞、雑誌、本、絵本を読む、写真集を見る、折り紙、ぬりえで毎月カレンダーづくり、貼り絵、習字、日記をつける、歌を歌う、季節の壁画(節分)づくり、かるた、トランプ、紙芝居、ネックレスと指輪づくり、風船バレー、ボール遊び、ボーリング、ドキドキゲーム、体操(ラジオ体操、テレビ体操、口腔体操、ごぼう体操、嚥下体操)、脳トレ(計算ドリル、漢字ドリル、四字熟語、間違い探し、クロスワード、今日は何の日遊び)、季節行事(初詣、誕生会、敬老会、クリスマス)、ドライブ(常磐公園、空港、北向き地蔵、琴崎八幡宮)、家族との外出等、利用者が気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人に希望に沿う事は難しく、支援は出来ていない。気分転換を図り、時々職員とお散歩に行ったり、花壇や畑作りをしたりしている。 コロナ禍でもあり、家族の協力で病院受診には行って頂いている。	事業所外庭のベンチで外気浴や日光浴、周辺散歩時に近所の庭園の見学、花壇づくり、畑づくり、季節の花見(桜、菜の花、スイートピー、薔薇、チューリップ、コスモス、紅葉)、家族の協力を得て馴染みの商店での買物や外食、一時帰宅等、コロナ禍の中でも万全の感染症予防対策をして、利用者一人ひとりの希望に添って出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のできる力に応じて支援できるようにはなっているが、現在自分で財布を所持されている方はいない。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者ご自身で携帯電話を所持されている方もおり、居室で好きな時に家族と電話をされている。 ホームの電話も要望があればいつでも応じられるようにしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	どの空間(フロア・トイレ・浴室等)も清潔に気持ちよく過ごして頂けるよう心掛けている。 フロアの模様替えをして広々と体操やレクリエーションが行えるにし、利用者の通路に危険がないよう安全に努めている。	玄関にはお雛様を飾り、リビングは自然光で明るく、広々としている。室内にはテーブルや椅子、ソファがゆったりと配置しており、和室コーナーにはテレビとテーブルが置いてあり、利用者は思い思いのところで談笑している。 壁面には行事の写真や毎月利用者が作った壁画(今月は節分)が掲示してある。リビング奥のキッチンからは調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。温度、湿度、換気に配慮し、定期的に消毒をして、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには利用者全員が座れるようにソファと椅子を設置しており、自分の好きな時に利用者同士でお話をしたり、パズル・塗り絵や音楽等を聴いたり歌ったりして楽しめている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には本人の馴染みの物や使い慣れた物を本人と家族にお話ししており、安心して落ち着いた生活が送られるよう、家族の協力も得ている。	ベッド、箆笥、衣装ケース、衣装かけスタンド、4段ボックス、テレビ、ラジカセ、時計、CD、携帯電話、ぬいぐるみ、クッション、人形、帽子、整容道具、アルバム、雑誌等、使い慣れたものや好みの物を持ち込み、誕生日カードや手作りのぬりえカレンダー、スター(石原裕次郎)のポスター、自分や家族の写真を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の特技や出来ることはそれぞれに違い、利用者同士もお互いに協力し合って生活している。利用者が混乱せずに自立した生活が送れるように、居室に名前プレートを表示したり、トイレや風呂も分かりやすく表示している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム なのはなの家

作成日： 令和 4 年 6 月 10 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	全職員での応急手当や初期対応の定期的訓練の継続	緊急時の対応や応急処置など、全職員がスキルを身に付けるよう、継続的に学ぶことが出来る。	・消防職員による救急対応の研修を実施・参加して、事故発生時や緊急対応のスキルを身につける。(年1回定期的に実施する)また内部研修においてもKYT訓練の実施や、実際の事故を事例に再発防止に努めるよう学習会を行う。	12ヶ月
2	36	地域との協力体制の構築	昨年度はコロナ禍のため、ホーム内入居者・職員だけの避難訓練となったが、地域の方々にも参加してもらい、防火管理者の指示の下、入居者と一緒に実施する。	・庭の花壇や畑作りを通して、日常の中でご近所や通行される方と挨拶を交わしたり関わりを持っている。自治会主催における行事や消防訓練に参加して頂く。ホーム緊急連絡網にも自治会へ連絡するよう整備し、地域との協力体制を構築する。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。